

# WOMEN

世界を変えた偉大な女性たち

著者●キアラ・パスクアレッティ・ジョンソン

訳者●貝塚泉、中尾眞樹、渡邊真里

The Most Influential Women of Our Time  
by Chiara Pasqualetti Johnson  
Copyright©2018 White Star s.r.l.  
Japanese translation rights arranged with White Star s.r.l., Milan  
through Tuttle-Mori Agency, Inc., Tokyo



# 目次

はじめに	6	エリザベス2世	122
エメリン・パンクハースト	10	シモーヌ・ヴェイユ	130
マリ・キュリー	16	アンネ・フランク	132
アレクサンドラ・ダヴィッド=ネール	20	グレース・ケリー	138
マリア・モンテッソーリ	24	オードリー・ヘプバーン	144
ガートルード・スタイン	28	ジャクリーン・ケネディ・オナシス	150
マタ・ハリ	32	ダイアン・フォッシー	158
ヴァージニア・ウルフ	36	マリー・クワント	160
ココ・シャネル	38	ワレンチナ・テレシコワ	164
アガサ・クリスティ	42	ワンガリ・マータイ	168
マーサ・グラハム	46	ジョン・バエズ	172
アメリア・イアハート	50	ロベルタ・ギブ	178
ゴルダ・メシア	56	ビリー・ジーン・キング	182
ペギー・グッゲンハイム	58	ザハ・ハディド	186
タマラ・ド・レンピッカ	62	ベナジル・ブット	190
レニ・リーフェンシュタール	64	クリスティアン・アマンプール	196
ダイアナ・ヴリーランド	68	ダイアナ・スペンサー	198
マーガレット・バーク=ホワイト	72	サマンサ・クリストフォレッティ	204
エステ・ローダー	78	ミスティ・コーブランド	208
ジョセフィン・ベイカー	80	ラウラ・デッカー	212
フリーダ・カーロ	86	マララ・ユスフザイ	216
レイチェル・カーソン	90	世界で活躍する日本の女性たち	222
シモーヌ・ド・ボーヴォワール	94	クエデンホーフ光子/猿橋勝子/赤松良子/草間彌生/フジコ・ヘミング/オノ・ヨーコ/石井幹子/田部井淳子/川久保玲/向井千秋/妹島和世/多和田葉子/中満泉/河瀬直美/西本智実/安田菜津紀/大坂なおみ	
リータ・レーヴィ=モンタルチャーニ	98	世界に発信する日本の“女子力”	228
マザー・テレサ	100	写真クレジット	230
ローザ・パークス	104		
インディラ・ガンジー	108		
エビータ・ペロン	112		
ロザリンド・フランクリン	116		
マーガレット・サッチャー	118		





# アンネ・フランク

1929.6.12(ドイツ・フランクフルト生まれ)～1945(ドイツ・ベルゲン・ベルゼン収容所にて死去)

アンネが“隠れ家”で暮らしている間につづった日記は、のちに現代史における最も衝撃的な文学作品のひとつとなった。それは過去に起きた恐ろしいできごとの証言であり、未来を担う世代への厳しい警告である。

アムステルダムの自宅の裏にあった文房具店で、アンネは13歳の誕生日プレゼントに買ってもらいたいものを見つけた。それは赤と白の表紙がかわいい正方形の日記帳だった。アンネが日記帳をプレゼントしてもらってまもなく、多くのユダヤ人にとっても、アンネにとっても、人生を大きく変えるナチスによる迫害が始まる。その数年前からすでに不快な経験をしてはいたが、ついにフランク家もアドルフ・ヒトラーの反ユダヤ主義の政策から逃れるため、アンネが生まれたフランクフルトを離れ、オランダへ移らなくてはならなくなった。しかし、ドイツはすぐにオランダに侵攻、ユダヤ人に対する迫害や国外追放が始まるのは時間の問題だった。1942年7月、アンネの誕生日の数週間後、彼女は父オットー、母エーディト、姉マルゴットの家族とともに、オットーが用意した隠れ家へ移る。そこは彼が働いていたオフィスの上階のアパートにあり、隠れ家への入り口はスライドする本棚で隠されていた。アンネたちは、戦争が遅かれ早かれ終わるだろうという望みを抱きながら、外部の世界に一切触れることなく、2年間を隠れ家で過ごすことになる。アンネは隠れ家での暮らしのなかで、架空の親友キティに手紙を書くという形で、誕生日にもらった日記帳に自分の生活をつづるようになった。1942年の終わりには、日記帳のすべてのページが埋め尽くされたが、アンネはノートや紙切れに、悲劇の2年間の生活を最後まで書き続けた。彼女の日記には、わずか数m<sup>2</sup>のスペースを分け合って暮らす2つの家族（隠れ家にはファン・ペルス家と、フリッツ・プフェファー氏も住んでいた）の日々の生活が事細かに記されていた。予想外の行動に衝突や口論が起きたり、冗談で笑ったり、ときに陰悪になったり、そして、何よりつねに発見される危険に怯えながら過ごす毎日だった。

彼女の有名な日記だけでなく、何枚かの写真もアンネ・フランクの人生について多くのことを教えてくれる。この写真は1941年に撮られたもの。アンネの写真のほとんどは、日常的にカメラを使っていた父オットーによって撮影された。家族の日々を記録したポートレートやスナップのなかに、幼少期からのアンネの姿が残されている。







P.134 ● 1935年に撮影された授業中のアンネ・フランク（教師の横に座っているのがアンネ）。彼女が1934年から1941年まで通っていたアムステルダムの第6モンテッソーリ・スクールは、現在、彼女の名前を冠している。自分自身について語り、感情を表現することを生徒たちに奨励する、革新的な教育が実践されていた。

P.135 ● 1937年、アムステルダムのレーデルマン家の砂場で遊ぶアンネ（左から2人目）。日記の出版後、オットー・フランクは送られてくる何千もの手紙に返事を書いたが、手紙の最後にはよく次のような文章をしたためた。「アンネの本がこれからのあなたの人生に影響を与え、あなたの環境が許すのなら、団結と平和のために働く人になってくれることを願っています」。



食事や最低限の必要な品物をこっそり運んでくれる友人たちは、アンネのために本も差し入れてくれた。アンネは本が届くのを辛抱強く待ち続け、届くとむさぼるように読みふけり、生まれながらの文才に磨きをかけていくが、1944年8月1日、「やさしく勇敢な人になろう」とノートに書いたのを最後に日記は終わる。その3日後、アンネたちは隠れ家から発見され、逮捕されることになる。アンネと姉マルゴットはベルゲン・ベルゼン収容所へ移送され、そこでチフスにかかり、命を落とした。アンネの日記は友人によって保管され、終戦を迎えたとき、収容所生活を生きのびたアンネの父オットー・フランクのもとに届けられた。オットーはごくプライベートな記述だけを削除し、彼女の日記を出版することを決心する。1947年、『隠れ家』[邦訳タイトル『光ほのかに：アンネ・フランクの日記』（文芸春秋新社・1952年）]のタイトルで、初めてアンネの日記が世界に送り出された。ニュルンベルグ裁判で示されたように、1000件以上の大虐殺があったという恐ろしい事実の証人でもあるこの日記は、これまで世界で3000万部以上、販売されている。





© YAYOI KUSAMA

### 水玉模様を通して描かれる世界

くさま やよい  
**草間彌生** (前衛芸術家)

1929年、長野県生まれ。絵画や立体作品、鏡の部屋等のアートで知られ、独自の水玉や網目を用いた表現で「水玉の女王」と呼ばれる。子ども時代、自分自身の幻視や幻聴などの体験をきっかけに絵を描き始める。1957年に渡米後、欧米諸国で多くの作品を発表。見る人に強い印象を与える個性豊かな作風には人間愛と平和のメッセージが込められ、前衛芸術家として高く評価を得て、世界中で多くの賞を受賞。ファッションデザインや小説などでも活躍。



### よみがえった 魂のピアニスト

フジコ・ヘミング  
(ピアニスト)

ベルリン生まれ。母は日本人のピアニスト、父はスウェーデン人の画家。幼いときに日本に帰国、母の手ほどきでピアノを始め、10歳からレオニード・クロイツァー氏にも師事。東京藝術大学卒業後から本格的に音楽活動を開始。国籍を失い、一時両耳の聴力を失うなど不幸に見舞われながらピアノを続ける。1999年、テレビのドキュメンタリー番組がきっかけで輝きを取り戻し、現在は世界中でリサイタルを行っている。動物愛護などの活動家でもある。



### 女性初、世界最高峰の登頂者

たべい じゅんこ  
**田部井淳子** (登山家)

1939~2016年。福島県生まれ。小学4年生で体験した那須連峰登山をきっかけに、登山の魅力を知る。昭和女子大学を卒業後、社会人の山岳会で本格的に登山を始める。1969年、女子登攀クラブを設立して女性の登山活動を推進。1975年には女性初のエベレスト登頂に成功、その後も世界の山々に登頂し、女性として世界初の七大陸最高峰登頂者となった。また、山の環境保全や、2011年の東日本大震災の被災者を励ます活動などにも、積極的に取り組んだ。



### 型破りの芸術活動で平和を訴える

オノ・ヨーコ (芸術家、音楽家)

幼い頃から両親の影響により美術や音楽に関心をもつ。学習院大学哲学科に入学後、1952年にアメリカにわたり、ニューヨークで芸術活動を開始。常識にとらわれない独自の表現方法で、数々の作品やパフォーマンスを発表。1969年、世界的なバンド、ビートルズのメンバーであるジョン・レノンと結婚。人類の愛と平和に向けて芸術を通じたメッセージを発信する活動をともしに行い、ジョンの死後も精力的に活動している。



### 世界の暮らしを ライトアップ

いしい もとこ  
**石井幹子**  
(照明デザイナー)

1938年、東京都生まれ。高校で進路に迷っていたときに工業デザインを知る。東京藝術大学卒業後にデザイン事務所に入社し、照明デザインと出会う。海外で照明デザインを学び、帰国後に事務所を設立。照明デザインの先駆者として東京タワー、レインボーブリッジ等多様な都市照明を手掛け、海外のプロジェクトやオペラの照明などにも進出。また、自費で日本国内を「ライトアップ・キャラバン」して光の可能性を提案するなど、光の文化の開拓者として活躍し続けている。



### ファッションに 新風を吹き込む

かわく ぼれい  
**川久保玲**  
(デザイナー)

1942年、東京都生まれ。慶應義塾大学を卒業後、スタイリストの仕事を経て独立。自立して生きるためにファッションの道を選ぶ。1969年、コムデギャルソン (フランス語で「少年のように」の意味) の名前でブランドを設立し、服の製造・販売を開始。1981年、パリコレクションに参加、独創的な作品を発表し続け、ファッションに新しい価値観を提案したと評される。以降、欧米のデザイナーにも影響を与え、経営者としても活躍、世界中で支持されている。



### アジアで最初の 女性宇宙飛行士

むかい ちあき  
**向井千秋**  
(宇宙飛行士)

1952年、群馬県生まれ。10歳頃から医者になる目標をもち、慶應義塾大学医学部に進学して心臓血管外科医となる。医師として働くうちに地球を外側から見てみたいと思うようになり、1983年、宇宙開発事業団 (現・JAXA) の宇宙飛行士募集の新聞記事を見て応募し、選出された。1994年、アジア人女性初の宇宙飛行士としてスペースシャトル・コロンビア号に搭乗。1998年にもディスカバリー号で宇宙に向かい、2回の宇宙滞在の間に多くの実験を行った。



本書は2018年にWhite Star s.r.l.から刊行された『The Most Influential Women of Our Time』を、同社からライセンスを受けた上でポプラ社にて翻訳し、日本語版として刊行したものです。日本語版刊行にあたっては、オリジナルページとして新たに日本人女性のページを加えています。

## 著者プロフィール

**キアラ・パスクアレッティ・ジョンソン** (Chiara Pasqualetti Johnson)

イギリス系イタリア人のジャーナリスト。ミラノ大学で美術史の学位を取得、ミラノを生活と仕事の拠点として執筆活動をしている。月刊美術専門誌『アルテ』での現代のアーティストに関する連載、古美術関連専門誌『アンティークアリアト』での書評のほか、旅行雑誌『ドヴェ』誌の特派員としてライフスタイルや旅行関連の記事を寄稿。エレクタ社、リッツォーリ社など大手出版社の近・現代美術に関する書籍編集にも携わっている。

## 訳者プロフィール

**貝塚 泉** (かいづか・いづみ)

東京都立大学化学科卒業。主な訳書に「とびきり聡明な女たち—英知の言葉100年」「人生の成功者になれる人—自分の夢をつかみ実現する方法」(ともに大和書房) などがある。

**中尾真樹** (なかお・まき)

上智大学文学部英文学科卒業。主な訳書に『わたしにふさわしい場所』(扶桑社)、『星空がくれた恋人』(幻冬舎)、『ライアーズ』1~4巻 (ACクリエイト) などがある。

**渡邊真里** (わたなべ・まり)

法政大学文学部卒業。訳書に『生物の進化大図鑑』(河出書房新社・共訳)、『アンディ・ウォーホルをさがせ!』(宝島社) などがある。

- 編集協力 室橋織江 (アマナ/ネイチャー&サイエンス)、栗栖美樹
- 装丁 ニシ工芸株式会社 (西山克之)

# WOMEN 世界を変えた偉大な女性たち

2020年11月17日 第1刷発行

著 者 キアラ・パスクアレッティ・ジョンソン

訳 者 貝塚泉、中尾真樹、渡邊真里(株式会社オフィス宮崎)

発行者 千葉 均

編集 倉澤紀久子

発行所 株式会社ポプラ社

〒102-8519 東京都千代田区麹町4-2-6

電話 03-5877-8109(営業) 03-5877-8112(編集)

一般書事業局ホームページ [www.webasta.jp](http://www.webasta.jp)

印刷・製本 大日本印刷株式会社

Japan Text by Izumi Kaizuka, Maki Nakao, Mari Watanabe 2020 Printed in Japan

N.D.C.367/231p/29cm/ISBN 978-4-591-16734-2

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。小社(電話0120-666-553)宛にご連絡ください。受付時間は月~金曜日、9時~17時です(祝日・休日は除く)。読者の皆様からのお便りをお待ちしております。本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内での利用であっても著作権法上認められておりません。